
FNIRSI

LPM-10C

多機能LANケーブルテスター 日本語取扱説明書（参考訳）



ご使用前に安全上の注意を必ずお読みください。

翻訳・編集：泰宕商事株式会社

参考訳 v1 / 2026-10-12

参照原本：LPM-10A/B/C英語共通取扱説明書 V1.3、本文1～17ページ。

本書について

本書はメーカー原本をもとに、操作・仕様・安全上の注意を日本語で翻訳・整理した参考訳です。メーカー公式の日本語版ではありません。画面の文言、仕様、付属品が異なる場合は、実機の型番・ハードウェア版と対応するメーカー原本を確認してください。

A/Cに適用する共通説明と、当該型番に適用する操作を翻訳した参考訳です。LPM-10B専用光機能の手順は除外しています。

構成

1. 安全上の注意
2. 概要・型番の違い
3. 端子・操作キー
4. 設定・基本操作
5. 線探索・線序・圧着検査
6. ポート点滅・長さ・リンク速度
7. PoE・NCV・ライト
8. LPM-10C専用：PING・IP Scan
9. 仕様
10. ファームウェア更新
11. 故障対処・清掃・保管

1. 安全上の注意

- ・高温、裸火、腐食性ガス、高湿度・粉じん環境を避けてください。ヒーター、水、薬品・溶剤、強い磁気を発する機器から離してください。
- ・測定前に端子の異物を確認して取り除き、対応する機能の端子へ正しく接続してください。接触不良・誤接続は測定誤差につながります。測定中に電池カバーを開けないでください。
- ・廃電池・廃機器は家庭ごみに混ぜず、地域の規則に従って処分してください。

接続対象と検電

原本に全端子の最大入力電圧・保護定格の詳細はありません。PoE対応をすべての端子への通電許可と解釈せず、実機とメーカー案内を確認してください。NCVの無表示だけで無電圧を判断しないでください。編集上の安全補足です。

2. 概要・型番の違い

LANケーブルの配線・探索・保守用の送受信機です。線序・故障、通常／耐干渉探索、ポート点滅、リンク速度・デュープレックス、長さ、圧着、PoEを検査します。受信機は感度調整、NCV、ライト、低電池表示、ヘッドホンとRJ45接続に対応します。

機能	LPM-10A	LPM-10C
通常／耐干渉探索、線序・圧着、長さ、ポート点滅、速度、PoE	対応	対応
PING・IP Scan	非対応	対応
光パワーメーター・赤色VFL	非対応	非対応

原本はLPM-10Bも共通掲載していますが、光機能はB専用です。A/Cへ光パワー計やレーザー機能を適用しないでください。本書はA/Cの該当章を翻訳しています。

3. 端子・操作キー

送信機の各部	用途
LCDと表示灯	結果を表示。待機：青、異常：赤、正常：緑。
上部RJ45	線探索等の接続。CはPING/IP Scan用の接続も備えます。原本と実機のラベルを確認してください。
側面Length／Flash／PoE端子	長さ、ポート点滅、PoE用。
側面配線／圧着端子	線序と圧着の検査用。
底面Type-C・リセット穴	充電／接続とリセット用。
電源／戻る	長押し：起動／終了。短押し：前の画面へ。
上下左右	選択操作。左右長押しは1秒後に連続選択となり、離すと停止。
M	設定画面：決定。測定画面：測定開始。
受信機の各部	用途
プローブ	探索信号を受信して線を探す。
電源	短押しで起動、長押しで終了。
SCAN	探索モードに切替。
NCV	非接触検電モード。
ライトキー	ライトオン／オフ。
感度ノブ	時計回りで探索感度を上げる。
表示灯	電源、探索、NCVの状態を表示。
3.5mm端子	ヘッドホン接続。
Type-C・リセット穴・RJ45	充電等と送信機接続用。

4. 設定・基本操作

送信機の電源を長押しして起動し、受信機は電源を短押しして起動します。送信機メイン画面で選択キーからSETTINGを選びMで入ります。項目を選びMで編集、左右で値を変え、戻るキーで保存・終了します。原本の他設定も同様の選択手順です。

設定	原本の内容
Language	簡体字中国語／English
Light	輝度0～10段階
Volume	音量0～10段階
Auto Off	OFF／5分／10分／15分
About	機器情報、Mと戻るキーによる初期化

初期化でカスタム設定が消去されます。必要な値を控えてから実行してください。

5. 線探索・線序・圧着検査

線探索：送信機と受信機を起動し、送信機のSCAN機能へ入ります。通常探索はアナログ信号、耐干渉探索はデジタル信号を用います。用途に合わせて選び、対象ケーブルを対応端子へ接続してMを押します。受信機を探索モードにし、ケーブル束の中で音が最も強くなる線を探します。感度ノブで調整してください。原本はシールド／非シールドLANケーブルの探索に対応すると説明しています。

線序・接続検査：対象を配線検査端子へ接続し、Cable Test（配線検査）を選びMで入ります。結線順、短絡、クロス等を確認します。原本の名称はNetwork cable dockingです。

圧着：対象ケーブルのRJ45プラグを圧着検査端子へ接続します。片端での検査に対応します。圧着機能へ入り、各線芯の正常／異常表示を確認します。検査画面にポップアップが出る場合は、同画面で右キーを長押しして校正します。原本に校正基準や詳しい表示文はないため、画面の案内を確認してください。

6. ポート点滅・長さ・リンク速度

ポート点滅：送信機を起動し、対象を側面のFlash端子へ接続します。FLASHを選びMで開始します。接続先ルーター／スイッチのポート表示が点滅し、該当ポートを特定します。全／半二重、自動／非自動ネゴシエーションを原本では自動認識します。

長さ：対象の片端を側面のLength端子へ接続し、反対側は何にも接続しないでください。Lengthを選び、左右で単位を選択してMで測定します。伝搬時間から長さを求め、結果を表示します。単位は原本ではインチ、cm、mです。

リンク速度：対象をFlash端子へ接続し、SPEED機能で10M／100M／1000Mと全／半二重を確認します。これは原本のリンク情報で、インターネットの実効転送速度を直接測るとは確認していません。最後の文は編集上の補足です。

7. PoE・NCV・ライト

PoE：送信機を起動し、対象を側面のPoE端子へ接続します。PoE機能へ入り、給電ペア、標準／非標準、給電方式、プロトコル、給電レベル、8芯の給電状態を確認します。原本では端部・中間給電等の自動識別を示していますが、具体的な対応規格一覧や入力上限は記載されていません。

NCV：受信機を起動してNCVキーを押し、プローブを対象の線・コンセント等へ近づけます。検出時に音で知らせます。表示がなくても電圧がないとは限りません。最後の文は編集上の補足です。

ライト：受信機のライトキーでオン／オフを切り替えます。

8. LPM-10C専用：PING・IP Scan

PING：CのPING端子へ対象のネットワークケーブルを接続し、PING画面へ入ります。ローカルIP・宛先IP、PING回数、送信時間を設定・確認し、送信・受信・損失件数を読みます。接続先ネットワークに適したIPを設定後、MでPINGを開始します。原本は応答確認等を説明していますが、PINGだけで帯域やすべてのネットワーク障害を診断するものではありません。最後の文は編集上の補足です。

IP Scan：CのIP端子へ接続し、IP Scanへ入ります。ネットワークに合わせてIP・対象範囲を設定し、Mで開始します。完了後、検出されたIPを表示します。原本の説明では単一または複数のIPを指定できます。権限を持つネットワークで実施してください。最後の文は編集上の補足です。

9. 仕様

項目	原本の値（A/C）
画面・輝度	2.4インチカラー、調整可
給電	Type-C、5V/1A
電池	送信機3000mAh、受信機1500mAh
言語	中国語／英語
送信機寸法	約152×68×31mm
速度表示	10M／100M／1000M、全／半二重
長さ誤差	20m以下：±1.6m、20～100m：±2.4m、100m以上：±3.2m

長さの境界条件は原本表に重複表記があります。測定可能な最大長、温度条件、最小分解能、ケーブル種別による詳細は原本に明記されていません。最大長を誤差区間から推定して追加しません。

10. ファームウェア更新

電源オフの状態でも電源キーを同時に長押しし、更新画面へ入ります。Type-CデータケーブルでPCへ接続し、PCで認識されたUSBドライブへ対応するメーカー配布ファームウェアをコピーします。更新画面では電源長押しで終了できます。

機種別ファイル

A/Cの実機型番・版を確認し、別モデルや未確認のファイルを転送しないでください。転送・書き込み中の電源断を避けます。対応OS・ファイル名は原本に明記されていません。これらは編集上の確認事項です。

11. 故障対処・清掃・保管

症状	原本の対処と注意
起動しない	電池切れ・接続不良の可能性。残量と充電を確認。充電できない場合は電池の再取付・交換が原本に記載されていますが、内蔵電池の作業はメーカーへ相談してください。
画面表示なし	バックライト設定、画面故障、ソフト異常の可能性。輝度を確認して再起動。原本には電源切断後の分解・電源端子再接続もありますが、安全な手順が明記されていないため本書はユーザーの分解を推奨せずサポートへ相談する扱いです。
LAN検査異常	端子の異物・劣化・ソフト異常を確認。端子を清掃して再試験し、改善しなければ修理・交換を相談。対応するメーカーのファームウェア更新を確認。

月1回を目安に、環境に合わせて柔らかい布で外装を拭き、ボタン周囲・端子のほこりを除きます。アルコール、強酸・強アルカリ等の化学洗剤を避け、液体・粉じん・異物が内部へ入らないようにします。

内蔵電池を定期確認し、完全放電・長期放置を避けて充電します。対応するメーカー充電器・充電仕様を守り、過充電・過放電を避けます。著しい劣化は交換を相談してください。乾燥・換気のある場所で保管し、高温・多湿・急激な温度変化・直射日光・落下を避けます。

更新はメーカーの適合ファイルと正しい手順を使用します。異常時は初期化を試せますが、カスタム設定は消去されます。原本保証章の無償修理・保証カード・取付条件違反、不適切な使用/保管、無断分解/修理、期限超過等の条件はメーカー規定です。泰宕商事の条件として転記せず、購入先の案内を確認してください。

参照資料とお問い合わせ

参照原本：LPM-10A/B/C英語共通取扱説明書 V1.3、本文1～17ページ。

原本の製造元：Shenzhen FNIRSI Technology Co., Ltd.

メーカー資料：<https://taigo-shoji.co.jp/manuals/fnirsi/lpm-10c-multi-17b2289fadc8.pdf>

製品・相談窓口：taigo-shoji.co.jp

お問い合わせ：support@taigo-shoji.co.jp

保証・初期不良対応は購入先の案内をご確認ください。原本にあるメーカー独自の保証延長、販売条件、広告表現は、泰宕商事の保証条件として転記していません。

原本との対応

原本の章・ページ	本書での扱い
1～3ページ	安全、各部、送受信機のキー機能。
4～8ページ	各機能、設定、型番差分、全該当仕様を保持。B専用光機能はA/C非対応を明記。
9～13ページ	設定、全該当測定手順、C専用PING/IP Scan。
14～17ページ・巻末	更新、全故障症状、清掃・保管、保証章の位置づけ。原本の分解手順はサポート相談へ整理。